



令和3年11月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

令和3年10月13日

上場会社名 津田駒工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 6217 URL <https://www.tsudakoma.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高納 伸宏

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部門統括 (氏名) 松任 宏幸

TEL 076-242-1110

四半期報告書提出予定日 令和3年10月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和3年11月期第3四半期の連結業績(令和2年12月1日～令和3年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
3年11月期第3四半期	19,402	18.2	2,746		2,696		3,548	
2年11月期第3四半期	16,417	44.7	2,800		3,019		3,036	

(注) 包括利益 3年11月期第3四半期 3,158百万円 (%) 2年11月期第3四半期 2,917百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
3年11月期第3四半期	555.46	
2年11月期第3四半期	475.21	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
3年11月期第3四半期	30,421	6,137	19.8
2年11月期	31,473	9,296	29.2

(参考) 自己資本 3年11月期第3四半期 6,028百万円 2年11月期 9,186百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2年11月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
3年11月期		0.00		0.00	0.00
3年11月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和3年11月期の連結業績予想(令和2年12月1日～令和3年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,000	34.3	3,100		3,100		3,800		594.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	3年11月期3Q	6,807,555 株	2年11月期	6,807,555 株
期末自己株式数	3年11月期3Q	418,854 株	2年11月期	418,676 株
期中平均株式数(四半期累計)	3年11月期3Q	6,388,781 株	2年11月期3Q	6,389,085 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P 2
(1) 経営成績に関する説明	P 2
(2) 財政状態に関する説明	P 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P 8
(継続企業の前提に関する注記)	P 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P 8
(追加情報)	P 8
(セグメント情報等)	P 8
(重要な後発事象)	P 8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にありますが、製造業の生産活動や設備投資の一部に持ち直しの動きが見られ、経済活動は徐々に改善の動きが見られました。

こうした中、当企業グループは、売上の拡大と受注の確保に注力いたしました。繊維機械事業、工作機械関連事業ともに受注・売上は、前年同期比ではプラスとなりましたものの、輸出比率が高い当企業グループにおきましては、東南アジア地域での感染拡大等の影響は大きく、当初の計画を下回りました。

この結果、全体の受注高は21,074百万円（前年同期比31.2%増加）、売上高は19,402百万円（同比18.2%増加）となりました。損益面では、工作機械関連事業では利益を確保したものの、繊維機械事業では新型エアジェットルームの生産開始に伴う初期投資費用の増加等もあり、全体では営業損失2,746百万円（前年同期 営業損失2,800百万円）、経常損失2,696百万円（前年同期 経常損失3,019百万円）となりました。また、保有株式の下落により投資有価証券評価損544百万円が発生したことに加え、事業環境の悪化により収益性が低下した固定資産について減損損失333百万円を特別損失に計上いたしました。その結果、親会社株主に帰属する四半期純損失3,548百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失3,036百万円）となりました。

セグメント別の状況は下記のとおりです。

(繊維機械事業)

繊維機械事業では、中国市場は、内需向け織物を中心に需要が続きました。一方で、ウォータジェットルーム案件でお客様の設備投資計画の遅れが発生するなど、市場には不安定要素も残っており、売上は計画を下回りました。また、インド市場は、新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴うロックダウンが解除され、経済活動にも回復の動きが見られました。しかし、依然としてL/C（信用状）の遅延は解消されず、予定していた受注・売上の増加には結びつきませんでした。パキスタン市場は第2四半期に引き続き、新型エアジェットルームおよび新型スパンサイザー案件の商談を継続いたしました。

こうした中、本年6月に中国で開催された国際繊維機械見本市において、新製品「ZAX001neoエアジェットルーム」、「ZW8200 ウォータジェットルーム」を初公開し、高機能と環境への配慮をアピールいたしました。また、近年、販促に注力している産業資材分野への対応力をアピールし、非衣料分野の集客にも成功いたしました。

この結果、受注高は16,916百万円（前年同期比37.7%増加）、売上高は15,226百万円（同比20.2%増加）となりました。一方、損益面では、新型エアジェットルームの生産開始に伴う初期投資費用の増加、海外物流コストや半導体等原材料の高騰の影響を受け、営業損失は1,950百万円（前年同期 営業損失1,444百万円）となりました。

(工作機械関連事業)

工作機械関連事業では、中国市場でのEMS業界向けのNC円テーブルの受注が堅調に推移するとともに、北米市場では設備投資の回復の動きが出てまいりました。国内向けマシンバイスは、受注・売上ともに増加し、利益確保に貢献いたしました。一方、主要な納入先であります国内の自動車産業向けは、半導体関連部品の不足による生産台数の減少等の影響を受けました。

この結果、受注高は4,157百万円（前年同期比10.3%増加）、売上高は4,175百万円（同比11.4%増加）となりました。損益面では、売上が増加したことに加え、設計のプラットフォーム化の効果が表われ、営業利益は134百万円（前年同期 営業損失419百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,051百万円減少し30,421百万円となりました。主な増減は、売上の増加に伴い受取手形及び売掛金、棚卸資産が増加したものの、現金及び預金の減少、減損損失の計上による固定資産の減少、時価が著しく下落した投資有価証券で評価損を計上し減損処理したこと等によるものであります。負債は、前連結会計年度末に比べ2,107百万円増加し、24,284百万円となりました。主な増減は、生産の増加により仕入債務が増加したこと等によるものであります。また、短期借入金を長期借入金に借換を行っております。純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失3,548百万円を計上したこと等により前連結会計年度末に比べ3,158百万円減少し6,137百万円となり、自己資本比率は19.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

世界経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が残る中で、経済活動の本格的な回復には今しばらく時間を要すると見ております。

こうした中、繊維機械事業では、新型ジェットルームや新型スパンサイザーの受注拡大を図るとともに、生産効率の改善を喫緊の課題として取り組み、収益の改善を図ってまいります。工作機械関連事業におきましては、第3四半期において利益を確保しておりますが、更なる拡大をめざし、堅調なEMS分野の受注の確保、回復が伝えられる北米市場の需要の取り込みを確実に図ってまいります。

通期の業績予想につきましては、売上高28,000百万円、営業損失3,100百万円、経常損失3,100百万円、親会社株主に帰属する当期純損失3,800百万円とさせていただきます。(詳細は、本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。)

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和2年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (令和3年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,990	3,721
受取手形及び売掛金	4,553	6,814
製品	3,326	3,735
仕掛品	987	1,014
原材料及び貯蔵品	1,851	1,984
その他	1,112	1,084
貸倒引当金	△10	△10
流動資産合計	18,810	18,344
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,766	2,568
機械装置及び運搬具(純額)	2,559	2,244
土地	3,826	3,826
建設仮勘定	192	48
その他(純額)	284	445
有形固定資産合計	9,630	9,134
無形固定資産	702	635
投資その他の資産		
投資有価証券	1,844	1,618
繰延税金資産	17	15
その他	876	1,080
貸倒引当金	△407	△407
投資その他の資産合計	2,330	2,307
固定資産合計	12,663	12,077
資産合計	31,473	30,421

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和2年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (令和3年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,331	2,633
短期借入金	10,515	7,409
未払法人税等	17	39
賞与引当金	—	368
受注損失引当金	402	278
製品保証引当金	62	72
未払金	1,985	3,863
その他	1,968	1,288
流動負債合計	16,283	15,954
固定負債		
長期借入金	765	3,255
役員退職慰労引当金	17	16
退職給付に係る負債	4,989	4,829
繰延税金負債	121	228
固定負債合計	5,893	8,329
負債合計	22,176	24,284
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,316	12,316
資本剰余金	2,434	2,434
利益剰余金	△4,349	△7,898
自己株式	△1,242	△1,242
株主資本合計	9,158	5,609
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	272	520
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	379	448
退職給付に係る調整累計額	△623	△551
その他の包括利益累計額合計	28	418
非支配株主持分	109	109
純資産合計	9,296	6,137
負債純資産合計	31,473	30,421

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和元年12月1日 至 令和2年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和2年12月1日 至 令和3年8月31日)
売上高	16,417	19,402
売上原価	15,589	18,274
売上総利益	828	1,127
販売費及び一般管理費	3,628	3,874
営業損失(△)	△2,800	△2,746
営業外収益		
受取利息	0	2
受取配当金	41	71
為替差益	—	62
その他	42	46
営業外収益合計	84	183
営業外費用		
支払利息	73	88
持分法による投資損失	167	30
為替差損	51	—
その他	11	14
営業外費用合計	304	133
経常損失(△)	△3,019	△2,696
特別利益		
固定資産売却益	1	1
投資有価証券売却益	258	54
特別利益合計	260	55
特別損失		
固定資産処分損	4	5
減損損失	—	333
投資有価証券評価損	242	544
関係会社株式評価損	4	—
特別損失合計	252	883
税金等調整前四半期純損失(△)	△3,011	△3,524
法人税、住民税及び事業税	11	22
法人税等調整額	35	1
法人税等合計	47	24
四半期純損失(△)	△3,058	△3,548
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△22	△0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,036	△3,548

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和元年12月1日 至 令和2年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和2年12月1日 至 令和3年8月31日)
四半期純損失(△)	△3,058	△3,548
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△19	247
繰延ヘッジ損益	△0	0
為替換算調整勘定	63	69
退職給付に係る調整額	95	72
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△0
その他の包括利益合計	141	390
四半期包括利益	△2,917	△3,158
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,890	△3,158
非支配株主に係る四半期包括利益	△26	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した、新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 令和元年12月1日 至 令和2年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	繊維機械 事業	工作機械 関連事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
売上高					
外部顧客への売上高	12,668	3,749	16,417	—	16,417
セグメント間の内部売上高 又は振替高	305	—	305	△305	—
計	12,973	3,749	16,723	△305	16,417
セグメント損失(△)	△1,444	△419	△1,863	△936	△2,800

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額は、セグメントに配賦していない全社費用△936百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

II 当第3四半期連結累計期間(自 令和2年12月1日 至 令和3年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	繊維機械 事業	工作機械 関連事業	合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
売上高					
外部顧客への売上高	15,226	4,175	19,402	—	19,402
セグメント間の内部売上高 又は振替高	269	—	269	△269	—
計	15,495	4,175	19,671	△269	19,402
セグメント利益又は損失(△)	△1,950	134	△1,815	△930	△2,746

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメントに配賦していない全社費用△930百万円あります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「繊維機械事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しています。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては333百万円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。